

事務事業 No./名称	<input type="checkbox"/> サービス部門 教育-18 <input checked="" type="checkbox"/> 支援部門 保健事務							
主管課	学務課	関連課	市民健康課					
分野名	学校教育							
目標 (目標値)	児童生徒の健康の保持増進を図る							
人口等のデータ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備考			
	人口	177,204人	177,161人	176,669人	・各年4月1日(住民基本台帳) ・対象者数は5月1日児童生徒数+就学時健診対象			
	世帯数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯				
	事業の対象者数	12,690人	12,524人	12,425人				
事業の対人費(千円)	58,278	58,051	58,508					
運営資源状況	(国・県)							
	(負担金等)							
	(一般財源)	58,278	58,051	58,508				
	人員配置数	1.6人	1.6	1.6				
	人件費(千円)	14,004	13,975	14,637				
	協働のパートナー	鎌倉市医師会・鎌倉市歯科医師会・鎌倉市薬剤師会 鎌倉市医師会・鎌倉市歯科医師会・鎌倉市薬剤師会						
	事務事業運営経費	総事業費(千円)	72,282	72,026	73,145			
	市民1人当りの経費(円)	408	407	414				
	対象者1人当りの経費(円)	5,696	5,751	5,887				
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒							
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)	
内部事務処理マニュアル(定期健康診断手引き)の修正	◎	目標値	毎年修正	毎年修正	毎年修正	毎年修正	毎年修正	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	修正済	修正済	修正済			

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	
保健事務	58,278千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	児童生徒の健康の確保・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の個人情報を取り扱うため、管理には十分注意を要する。 保健業務で密接な関わりをもつ養護教諭との連携・協議が必要である。 保健事務を円滑に執行するためには、学校医を委嘱している医師会、歯科医師会及び薬剤師会の連携及び協力体制を強化する必要がある。 腎臓疾患のある児童生徒の管理方法について見直しが必要となっている。
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と個人情報の取り扱いに関し、管理を徹底するよう働きかけた。 養護教諭の代表とは、定期的な協議等を行える会議を設定し、また、養護教諭全体とは、年1回の打ち合わせ会等を活用し保健業務の効率的な運営を図れるよう事務改善に努めた。 医師会については、前年度に引続き代表理事と検診業務について意見交換等協議を行い業務の対応及び見直しを図った。また、歯科医師会及び薬剤師会とは、代表と協議を重ね、効率的な事務執行に努めた。 腎臓疾患については、腎臓疾患対策委員会を年2回開催し、専門医・学校医・養護教諭及び教育員会と協議を行い、より児童生徒の現状に合わせた管理方法への見直しを行い改善を図った。
未解決の課題	<ul style="list-style-type: none"> 連絡協議、契約の場を利用して、関係機関と個人情報の取り扱いについて、慎重に取り扱うよう周知しているところであるが、今後とも徹底していくことが必要である。 学校における結核対策業務としては、国から新たな対策業務が示されたため、結核対策委員会等で協議を行い業務変更が必要となっている。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	※□事業完了	
	➡	②妥当性 ○		・個人情報の取り扱いについては、今後とも管理を徹底するよう対応していく。 ・養護教諭とは、あらゆる機会を捉えて協議や説明等を実施し、効率的な業務運営を図っていく。 ・社会環境の変化に伴い学校保健における医師会、歯科医師会及び薬剤師会と緊密な連携がより必要となってきたため、今後も意見交換等を実施し業務の効率化等を図ってきたい。	課長等名	
		③有効性 ○			A	課長(代理)
		④公平性 ○				廣川 智久

(2面) 個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	23年度予算	23年度決算値	個別事業の評価結果
保健事務	主な個別事業	1127 学校医報酬	33,880	33,804	■適切 □見直し余地あり
		1127 学校薬剤師報酬	4,580	4,580	■適切 □見直し余地あり
		1127 心臓病検診業務委託料	6,039	6,283	■適切 □見直し余地あり
		1127 腎臓病検診業務委託料	3,220	2,876	■適切 □見直し余地あり
		1127 就学時健康診断委託料	1,719	1,719	■適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり